

2 0 1 6 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 溪 仁 会

2016年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所は、2015年度からの入院者の増加傾向が拡大し2016年度でもその数は増加し、目標値の達成とはならなかった。短期入所は、上期に比較して下期に入ってから、平均利用者数、介護度の上昇もあり平均単価も上回る月もあった。

GHは、ほぼ目標予算稼働率を達成し順調に推移していたものの、下期、特に年末から死亡退所が相次ぎ、年度末までに新規の受け入れをしたものの、介護度の低下となった。

訪問介護、居宅介護支援は、2016年11月末でケアセンターところを閉鎖し、敬樹園との統合を図ることで事業管理の一本化と大幅な経緯の削減となった。統合後に拠点が中央区に変更になったことによる影響を各担当が工夫しながら西区の関係機関、団体と有機的な連携を継続することが重要なポイントとなる。

通所介護は、上期に市の実地指導を受けてこれまでの内部での問題を精査し、より運営基準に基づいた事業運営へと改善がされた。目標値の面では苦戦が続き、年間で目標値の達成とはならなかった。2017年度は、加算取得と特色ある事業サービス提供で新たなスタートを試みる。

全体的に、入所、訪問介護ともに介護人材不足が深刻で、利用ニーズはあるものの、新規利用者獲得を思うように受け入れができていない。

2016年度は、年間を通じて介護職員不足などのため全事業所にて利用者数が安定せず、特に年末から年始にかけて感染症の拡大により大きく収益が減少することとなった。安全なケアの提供と安定した施設運営のためにも、種々のリスク管理を職員が主体的に実践することが重要である。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2016年度は、2017年度からの在園率の低下が改善できないままの1年間であった。しかし、経営改善の取組みとして各事業での経費において慣例的な支出から根拠ある支出への意識改革を実施。2017年度に向けても予算編成時に「昨年度と同様」の計上から「根拠のある」計上と変更。また、経費は各事業の管理者が事象計画に基づき算出根拠により計上、執行する形へ変更することとした。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘・ところ（訪問・居宅）>

医 師： 2名（非常勤） 看護職員： 11名（内非常勤3名）

介護職員： 76名（内非常勤9名） 生活相談員： 7名

介護支援専門員： 6名 介護予防： 2名

作業療法士： 2名 言語聴覚士： 1名

理学療法士： 1名 管理栄養士： 1名

常勤ヘルパー： 6名 非常勤ヘルパー： 32名

事務職員他： 12名

合計職員数：159名（常勤職員110名、非常勤職員49名）

○2016年度職員異動状況（常勤職員）

採用：12名（看護職員：2名、介護職員：10名）

退職：15名（看護職員：2名、介護職員：13名）

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加（施設職員参加状況）

・敬樹園：42回 ・通所介護：18回 ・訪問介護（敬）：12回

・居宅介護（敬）：37回 ・西円山の丘：14回

○ 内部研修

・入 所：事故防止 2回、感染予防 2回、抑制廃止/高齢者虐待防止 1回

褥瘡予防 1回、緊急災害 1回

・その他：新人職員研修 1回、食事ケアと口腔ケア 1回、理念の浸透 1回

個人衛生 1回、施設サービス計画 1回、セルフケア 1回

看取り研修 2回

・敬樹園：13回 ・通所介護：6回 ・訪問介護（敬）：7回

・居宅介護（敬）：14回 ・西円山の丘：7回

2016年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>44,530 人</u>	<u>42,120 人</u>
一日平均入所者数	<u>122.0 人</u>	<u>115.4 人</u>
入所待機者	<u>176 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.40</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. _____</u>	
	<u>3. _____</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,650 人</u>	<u>3,319 人</u>
一日平均入所者数	<u>10.0 人</u>	<u>9.1 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.7</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6,088 人</u>	<u>5,125 人</u>
一日平均利用者数	<u>23.5 人</u>	<u>19.9 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.4</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>5,895 回</u>	<u>7,156 回</u>
(介護保険外)		<u>2,129 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>16.2 回</u>	<u>19.6 回</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.1</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,267 件</u>	<u>1,263 件</u>
(うち介護予防)		<u>272 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.2</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 103 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：14 件 権利擁護：1 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：56 件 その他：35 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>29 回</u>	<u>477 人</u>
介護予防教室	<u>39 回</u>	<u>404 人</u>
転倒予防教室	<u>33 回</u>	<u>257 人</u>
認知症予防教室	<u>42 回</u>	<u>311 人</u>
研修会・講演会	<u>3 回</u>	<u>88 人</u>
その他	<u>43 回</u>	<u>945 人</u>

(曙・幌西)

延相談件数 140 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：19 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：94 件 その他：33 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>24 回</u>	<u>528 人</u>
介護予防教室	<u>2 回</u>	<u>44 人</u>
転倒予防教室	<u>22 回</u>	<u>455 人</u>
認知症予防教室	<u>21 回</u>	<u>428 人</u>
研修会・講演会	<u>2 回</u>	<u>39 人</u>
その他	<u>24 回</u>	<u>927 人</u>

2016年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,740 人</u>	<u>9,536 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>26.1 人</u>
入所待機者	<u>6 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.53</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

2016年度 事業報告

ケアセンターこころ

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	4,850 回	4,089 回
（介護保険外）		2,351 回
一日平均利用回数（介護保険）	17.0 回	16.8 回
要介護度状況	： 平均要介護度 2.2 （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	820 件	735 件
（うち介護予防）		58 件
要介護度状況	： 平均要介護度 1.9 （要支援1・2を除く）	

2016年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

2016年度は、「社会福祉法人」という性格や性質、使命を再認識するとともに、当施設としての方向性やあるべき姿を今一度振り返る意味を込めて、施設理念を変更して挑んだ一年であった。ユニットにおいては、2015年度内からの退職者への対応について、年度当初より予定人員を採用し、都度補充による対応を行ってまいりましたが、介護人財の総体的な減少において、主な打開策が見出せず慢性的な人財不足の解消までには至らなかった。そうした中、現人員数での現行勤務体制による運営が将来的に困難な状況となると判断し、夜間勤務時間の短縮と併せて、勤務時間帯の見直し・変更を行った。それぞれ評価は異なるが、夜間帯における職員の身体的・精神的負担の軽減が図られたことなどから、総じて数字には表すことのできない一定の成果が上がったものと感じている。偏に介護職員一人ひとりの力量が上がっていることに加え、職員一人ひとりが現状への理解と変革に適応してくれたことに感謝いたします。

経営面においては、2015年度よりご入居者の重度化とショートステイご利用者の他施設入所や入院などが重なり、全体としては目標収益を下回ることとなったが、通所介護においては稼働率が堅調に推移し目標収益を上回る結果となった。特養においては、大谷地病院との連携による「精神科医師療養指導加算」（5月より）の算定、通所介護における「事業所評価加算」が算定可能となった事などにより、目標単価の維持・向上を図ることができた。

2017年度は「地域への公益的な活動」の取り組み着手と全職員参加型による5S活動の推進に向けた初年度として、積極的に展開していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○毎月1回 施設運営会議において経営状況の課題について協議・報告を実施した。

○参加者： 施設長、施設ケア部長 他 各部署責任者

○内 容： 毎月における各事業の目標収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の達成状況確認と検証、加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた数値確認など

<成 果>

○当施設経営状況の実態や居宅サービス（通所・短期）利用者の動向についての共通認識が図られた。

○平均要介護度の維持と共通認識により「日常生活継続支援加算」の算定を維持し、概ね目標単価を維持することができた。

○通所における要介護利用者比率の底上げ意識の醸成と利用キャンセルに伴う振替利用の徹底が図られた。

○通所利用者によるショートステイへの併用利用の円滑な受け入れに向けた協議を行った。

<今後の展開>

○上記取り組みの継続強化と新たな加算の算定に向けた協議並びに施設内における入所受入判定基準の広範化に努める。

○経営面に限ることなく、各部門間における課題解決に向けた協議・検討を行っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況

特養・短期：管理者1名、医師2名（非常勤）、看護職員7名（うち非常勤1名）、介護職員55名（うち非常勤11名）、生活相談員2名、介護支援専門員1名、理学療法士1名、栄養士（管理栄養士含む）3名、事務職員3名
※育児休業取得者7名含む（看護師1名、介護員5名、管理栄養士1名） 育児短時間取得者2名

通所：管理者1名、生活相談員2名（介護員兼務）、介護職員10名（うち非常勤2名）、看護師3名（うち非常勤1名）

送迎運転手4名（非常勤）

合計職員数95名【常勤74名、非常勤21名】

○2016年度職員採用・退職等状況（施設外異動による転入出含む）

採用：32名【看護職員3名（うち通所1名）、介護職員19名（うち通所3名）、管理栄養士4名、生活相談員1名、事務職員1名
送迎運転手4名】施設外異動者4名

退職：23名【看護職員2名、介護職員13名（内通所2名）、栄養士2名、生活相談員2名、送迎運転手4名】施設外異動者4名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（法人本部・溪仁会グループ内研修含む）

ユニットリーダー、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護実践者研修、雇用管理改善啓発セミナー、老人福祉施設長研究セミナー、他 法人本部・溪仁会グループ主催研修 延173名参加

○内部研修実施状況

「認知症学習会」（北海道医療大学認定看護師講師）延33名、「褥瘡予防研修」（北海道大学病院認定看護師）20名

他 感染予防（ノロウイルス・インフルエンザ）、身体拘束・虐待防止・接遇 他

○その他～北海道抑制廃止研究会、日本褥瘡学会学術集会（各1演題）、溪仁会グループ研究発表会（3演題）発表

その他近隣町内会での講話や転倒予防教室などの講師として参加

2016年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>29,200 人</u>	<u>27,474 人</u>
一日平均入所者数	<u>80.0 人</u>	<u>75.3 人</u>
入所待機者	<u>134 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.0</u>	
協力医療機関	： <u>1. ごとう内科クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	
	<u>4. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり</u>	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,646 人</u>	<u>1,035 人</u>
一日平均入所者数	<u>4.5 人</u>	<u>2.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,980 人</u>	<u>9,278 人</u>
一日平均利用者数	<u>34.8 人</u>	<u>35.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.5</u> （要支援1・2を除く）	

2016年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括
入居・ショートともに目標の稼働率を達成した。結果、収支状況においても、人件費率及び利益率共にほぼ目標を達成した。 職員確保においては、看護職員・管理栄養士・相談員などの有資格者については欠員なく推移したが、介護福祉士については加算基準を満たすことができなかった。又、65歳から75歳までの女性パート職員を数名採用し補助業務を担当する。
2. 経営改善プロジェクト活動状況
○2016年度の下記計画を確認した。 1. 短期生活入所介護の安定した稼働のための土日祝日・24時間ショートの受け入れを実施 2. 全職員参加型の教育（研修）の定例実施 3. 「コミュニティの丘」各施設事業所との連携
3. 職員状況（3月末現在）
○2017年3月31日職員状況 施設長：1名 医師：1名（嘱託） 栄養士：1名 介護職員：24名 看護職員：4名 事務職員：1名 相談職員：2名 介護補助：4名 合計：38名 ○定期業務委託：給食・清掃洗濯・浄化槽管理
4. 研修参加・実施状況
○施設内研修（全職員参加） 4月・有給・時間外処理のオリエンテーション 5月・虐待研修会 6月・事故発生防止研修 7月・移動介助技術研修・ショート24・365ロールプレイ・コミュニケーション研修（対話力） 8月・防災研修・虐待研修 9月・看取り研修 10月・感染研修・直接処遇研修・腰痛予防研修 11月・リスクマネジメント・感染予防 12月・虐待研修 1月・認知症介護実践研修 2月・防災研修 3月・虐待研修 ○施設外研修 6月・マスタ技術研修・こころをつなぐコミュニケーション（全老健） 7～9月・認知症介護実践研修（幸清会） 10月・岩内保健所感染講座（保健所）・直接処遇職員研修（後志老施協）

2016年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：店員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,300 人</u>	<u>18,724 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>51.1 人</u>
入所待機者	<u>0 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.4</u>	
協力医療機関	： <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：店員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,928 人</u>	<u>2,352 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>6.4 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.71</u> (要支援1・2を除く)	

2016年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

2016年度は、「日常生活継続支援加算」の算定要件を維持しつつ、両施設とも目標アベレージを概ね維持できたことで収支目標の達成に繋げることができた反面、自然退職に伴う職員の補充が追いつかず、介護職員の確保が大きな課題となった一年であった。そのため、上期は経過記録等のPC入力（ウインケアの活用）の導入や、下期からは8時間夜勤の導入及び夜勤者数の変更（喜5名、留2名）等による業務の見直し及び効率化を図りながら、看取りケアを含めたサービスの質の向上に努めてきた。2017年度は、各種委員会を再編するとともに、内部・外部研修への積極的な支援やユニットの生活空間をより家庭的なものとする設えの工夫、認知症ケアへの実践として「学習療法」の支援を継続していく。

在宅事業においては、1月から「ケアプランセンターこころようてい」を開設し、これまで以上に行政や関係機関と協力しながらこの地域における地域福祉の拠点施設としての役割が求められており、更なるサービスの質の向上を図りつつ、新たな「日常生活支援総合事業」や、両町村からの受託事業等に関わっていく。

2017年度においては、中長期的な視野で、施設運営の基盤固めと、ICT等を活用した業務の推進、外国人も含めた人材確保策の検討、更には介護保険制度（報酬）改定等の課題にも積極的に取り組んでいきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務と改善

- ・経過記録等のPC入力（ウインケアの活用）
- ・8時間夜勤の導入
- ・夜勤職員の効率配置（喜5名、留2名体制への変更）及び宿直体制の継続
- ・インカム（無線）の有効活用

2) 各種加算の算定（両施設）

- ・「日常生活継続支援加算」算定。
- ・「認知症専門ケア加算Ⅰ」算定。
- ・看取り介護加算（喜8名、留3名）算定。
- ・今後も、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の継続取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。

3) 費用等の見直し

- ・2017年度は、2016年度との対比により、光熱水費等の更なる経費の削減に取り組む。

4) その他

- ・新たな人材確保策として、外国人技能実習生に関わる住宅等の体制の整備を実施。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況 総職員数 93名（喜60名、留33名）

非常勤医師2名、看護職員10名（内非常勤3名）、介護職員65名（内非常勤7名、派遣3名）、生活相談員兼介護支援専門員3名、看護師兼介護支援専門員1名、管理者兼生活相談員1名、管理栄養士2名、訪問介護員2名、事務職員他7名（内非常勤1名）

○2016年度職員異動状況

採用13名【介護職員9名（内新卒1名、派遣2名、非常勤1名）、看護職員3名（内非常勤1名）、事務員1名】
退職14名【介護職員11名（内非常勤1名、派遣1名）、看護職員1名（内非常勤1名）、相談員2名】
異動 1名【居宅ケアマネ1名（こころまるやまより）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：20回、延べ835名参加

看取りケア、リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇、認知症ケア等

○外部研修参加回数：喜63研修に延べ114名、留30研修に延べ39名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、介護職員実務者研修、全道老人福祉施設研究大会、ユニットリーダー研修、湊仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2016年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,470 人</u>	<u>28,451 人</u>
一日平均入所者数	<u>78.0 人</u>	<u>77.9 人</u>
入所待機者	<u>5 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.53</u>	
協力医療機関	: <u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 喜茂別歯科</u>	
	<u>4. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>780 回</u>	<u>487 回</u>
(障がい)		<u>316 回</u>
(制度外)		<u>1 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>3.1 回</u>	<u>1.9 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.4</u> (要支援1・2を除く)	

2016年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,406 人</u>	<u>10,284 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>28.2 人</u>
入所待機者	<u>2 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.03</u>	
協力医療機関	: <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 留寿都歯科診療所</u>	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,300 人</u>	<u>1,500 人</u>
一日平均入所者数	<u>5.3 人</u>	<u>6.15 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.4</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】※2017年1月1日事業開始

	目 標	実 績
延作成件数	<u>105 件</u>	<u>107 件</u>
(うち介護予防)		<u>3 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.85</u> (要支援1・2を除く)	

2016年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

○2016年度の総括

開設から3年目を迎えた「手稲つむぎの杜」は、7事業を展開する介護・福祉の総合施設として、「運営基盤の一層の強化と新たな挑戦の年度」を目標に全職員体制で事業運営に取り組んだ。

その結果、全体としての事業実績は年度を通して順調に推移し、職員の定着も進むなど運営基盤の一層の強化が図られた。サービスの質向上においても、個別ケアの充実を図るべく様々な取組みを実施、また、入所においては年間を通じ転倒骨折事故ゼロを達成し、職員個々の成長も感じられる年度となった。地域における信頼関係の構築など、数字に表れない部分においても組織として大きな成長がみられ、これらのことから、総じて2016年度の目標は達成されたものと考えている。

○今後の展開

開設4年目となる2017年度は「経営基盤の安定化と挑戦の具現化」の年度と位置づけ、運営方針等に基づく各事業の積極的かつ効果的・着実な推進に取り組んで行くこととする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞ 施設運営会議（原則毎月第3金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入所：年間新規5名、稼働率99.5%、年間を通し退居者も少なく（看取り4名、入院2名）安定的なベッドコントロールができた。年間空床数131日。

短期：年間新規46名、稼働率78.0%、手稲区内居宅介護支援事業所を中心に安定的に利用者を紹介頂き、目標Ave並びに延利用者数ともに達成。通所並びに認知通所利用者のレスパイト利用も多く、事業所間の連携が図れた。

通所：年間新規51名、稼働率86.0%、登録利用者の長期入院等発生も新規利用者の積極的な受入により目標延利用者数を達成。下期より要介護比率上昇により単価においても改善。

認知：年間新規11名、稼働率81.7%、小規模事業ながら安定的に利用者を確認し、目標Ave並びに延利用者数ともに達成。

居宅：年間新規74名、積極的に新規を受け入れるも終末期の短期間のケースも多く、延利用者数については僅かに目標に届かず。施設内各事業所とのスムーズな連携により、各事業所の利用者増に大きく貢献。事業損益においては黒字化。

予防：すこやか倶楽部等予防事業の参加者も増加。地域との連携、施設ギャラリースペースへの展示等、施設運営にも大きく貢献。

障がい：南後志の相談・計画を円山HCCに移管も、委託相談、計画相談も増加し、安定的な事業運営が図れた。

○各種加算の算定

入所においては「日常生活継続支援加算（Ⅱ）」、短期生活・通所・認知通所においては「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ」を継続算定。その他、入所においては、療養食加算、経口維持加算、看取り加算等、通所においては、個別機能訓練加算（Ⅱ）等の算定により、単価維持・上昇に努めた。

○水道光熱費及び費用の見直し

水道光熱費は前年度比▲1,845千円と各部署協力のもと削減が図れた。今後もオムツ等消耗品の見直し、適正利用に努めるとともに、引き続き、各種委託業務・委託料の見直しを中心に交渉を継続する。

○2017年度に向けて

収益の確保は勿論であるが、勤務体制の見直し等適正な人員配置も検証しながら、最小の費用で最大の効果を生むことができるよう一層の経営改善に努める。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日現在 職員状況 ＜入所・短期・通所・認知通所・居宅・介護予防・障がい＞ 合計132名（内非常勤30名）

入所・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員6名、介護職員57名（内非常勤9名、派遣1名）、介護支援専門員2名

理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員2名、事務職員4名 ・計75名

通所・認知：管理者2名、看護職員5名（内非常勤3名）、介護職員35名（内非常勤15名）、作業療法士1名、

運転職員3名（非常勤） ・計46名

居宅・予防：管理者2名、介護支援専門員4名 ・計6名

障がい：管理者1名、相談支援専門員4名 ・計5名

○2016年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

採用：18名【看護職員1名（入所）、介護職員16名（入所13名、通所3名）、相談支援専門員1名（障がい）】

退職：12名【看護職員1名（入所）、介護職員10名（入所5名、通所5名）、管理者1名（入所）】

異動：2名【介護職員2名（通所）敬樹園より1名、円山より1名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む）※参加回数105回、延249名参加

全道老人福祉施設研究大会、ユニットケア施設管理者研修、ユニットリーダー研修、認知症介護実践者研修、リスクマネジメント研修、高齢者虐待防止推進研修会、キャラバンメイト養成研修、年代別キャリアデザイン研修会、役職者のためのメンタルヘルス研修、職員合同研修会、グループ研究発表会、中堅管理職講座、地域連携とチーム連携研修、アンガーマネジメント研修 他

○内部研修実施状況 ※開催回数28回、延467名参加

感染対策研修、虐待防止研修、事故防止研修、褥瘡予防研修、摂食・嚥下研修、口腔ケア・歯周病予防研修、認知症研修、ケア向上研修、介護ロボット導入研修、認知症ケアと地域包括ケアシステム研修、事例検討会、補聴器について 他

2016年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,835 人</u>	<u>29,069 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>79.6 人</u>
入所待機者	<u>175 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 4.11</u>	
協力医療機関	: <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	
	<u>4.</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,738 人</u>	<u>2,834 人</u>
一日平均入所者数	<u>7.5 人</u>	<u>7.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.52</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>17,360 人</u>	<u>17,395 人</u>
一日平均利用者数	<u>56.0 人</u>	<u>55.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.45</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,966 人</u>	<u>3,025 人</u>
一日平均利用者数	<u>9.5 人</u>	<u>9.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.44</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,830 件</u>	<u>1,779 件</u>
(うち介護予防)		<u>40 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.77</u> (要支援1・2を除く)	

【介護予防センター】

(まえだ)

延相談件数 71 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：28 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：15 件 その他：36 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>37 回</u>	<u>884 人</u>
介護予防教室	<u>5 回</u>	<u>81 人</u>
転倒予防教室	<u>16 回</u>	<u>418 人</u>
認知症予防教室	<u>5 回</u>	<u>172 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者	99名	登録抹消者	66名	年度末登録者数	296名
(地区別)	北区 1名	清田区 1名	南区 1名		
	西区 7名	手稲区 283名	市外 3名		
(障がい種別)	身体 58名	重心 13名	知的 108名	精神 60名	
	発達 48名	高次脳 1名	難病 1名	その他 7名	
(児・者別)	障がい児 67名	障がい者 229名			
支援方法	訪問 715件	来所 219件	同行 257件		
	電話 581件	ケア会議 166件	関係機関 1,160件		
	メール 28件	その他 10件	連絡・調整 1,671件		
	登録外相談 705件	合計 5,512件			
支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	2,001件			
	障がいや病状の理解に関する支援	45件			
	健康・医療に関する支援	272件			
	不安の解消・情緒安定に関する支援	125件			
	保育・教育に関する支援	16件			
	家族関係・人間関係に関する支援	126件			
	家計、経済に関する支援	111件			
	生活技術に関する支援	151件			
	就労に関する支援	229件			
	社会参加・余暇活動に関する支援	33件			
	権利擁護に関する支援	27件			
	連絡・調整	1,666件			

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規計画	33件	（内年度内終了者 3件）
モニタリング	223件	

2016年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養は、平均介護度が4.48まで上がり医療ニーズの高い入居者も多く入退所が続く、居室コントロールに時間が掛かり目標に近い実績まで上げる事はできなかった。(一日平均入居者数：2015年度：28.3名⇒2016年度：27.9名)

小規模多機能型居宅介護は、特養同様に利用者の出入りが頻回であったが、定期的に他事業所や病院等に営業活動実施し実績として平均登録者数27.5名を維持することができた。結果的に特養、小規模多機能型居宅介護とも平均介護度が上がり単価アップにつながったが、入退所の出入りが多く迅速な受け入れ対応が課題と強く感じた。

共用デイは、登録者2名までしか至らなかった。また、2名とも年度途中で休止(体調不良)してしまったことから、更なる認知症高齢者の受け皿として他事業所等に営業活動等でアピールして登録増になるよう努力していきたい。

骨折等な事故はなかったが、誤薬事故件数が2015年度より若干増加傾向であった。個々の事故評価をしっかりと実施し、同様の事故件数を無くすように対応していきたい。また、施設全体でのご利用者やご家族からの苦情もほとんどなく経過することができた。施設内外研修に関しても計画以上に実施・参加できた事は評価できる。

職員(特に介護職員)の退職があったが、大きく業務に影響することはなかった。しかし、人員確保が厳しい状況であることは今後の大きな課題であると考えている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3月曜日(17:30～)開催

- 1) 共用型デイサービスについてのサービス内容・登録増のための活動
- 2) 新人介護職員教育等について(離職防止も含め)
- 3) 入居、小規模多機能型居宅介護そして共用型デイ、兼任可能施設職員の在り方について
- 4) その他

<成果>

- 1) 共用型デイ専用パンフレットを作成、定期的な事業所にあいさつまわりを実施。登録2名あったがその後、登録増には至らず
- 2) 定期的にマニュアルを見直して、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。
- 3) 地域密着サービスの特徴をしっかりと活かし、各職種(介護福祉士・介護支援専門員)の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、そして共用型デイ同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。
- 4) 入浴時間等・クラブ時間等についてはある程度、利用者の希望に添った時間にて提供ができた。今後もゴールドプラン(個別ケア)を充実させていきたい。

<今後の展開>

中重度要介護者・認知症高齢者の対応が今後の更なる課題となる。そのためにも専門性の向上と業務の効率化を図っていきたい。また、地域の皆様と共に地域全体で高齢者の方々を支える仕組みづくりを進めていきたい。

3. 職員状況(3月末現在)

○2017年3月31日職員状況

医師1名(非常勤)、看護職員4名、介護職員32名(内派遣4名)、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員1名、事務職員他2名、合計42名(派遣4名 育児休業1名)

○2016年度職員異動状況

採用16名【介護職員10名(常勤1名、契約3名、非常勤1名、派遣3名、障害2名)・看護師4名(常勤2名、転籍2名)生活相談員1名(転籍1名)・管理栄養士1名(常勤1名)】

退職14名【介護職員11名(転籍1名、常勤4名、非常勤1名、派遣3名、障害2名)・看護職員2名(常勤1名)管理栄養士1名(常勤1名)】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：13回、延259名参加

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、腰痛防止、看取りケア、学習療法、他施設見学、等 外部講師2回依頼

○外部研修参加回数：52回、延65名参加

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修、特養看護と介護の連携協働研修、学習療法研修、リスクマネジメント研修、認知症ケアスキルアップ研修、ストレスチェック対策セミナー、相談職研修、施設長研究セミナー

○2017年度も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修(全職員参加)参加の機会を作っていく。

2016年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,404 人</u>	<u>10,201 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.9 人</u>
入所待機者	<u>55 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.48</u>	
協力医療機関	： <u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u> <u>4.</u> <u>5.</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,223 人</u>	<u>10,052 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,515 人</u>
※延宿泊数		<u>1,061 人</u>
※延訪問数		<u>1,859 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.0 人</u>	<u>27.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.21</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型3名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>244 人</u>	<u>13 人</u>
一日平均利用者数	<u>1.8 人</u>	<u>0.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.50</u> (要支援1・2を除く)	

2016年度 事業報告

施設名： カームヒル西円山

1. 総括

2016年度は、特定入居者生活介護の入居者様の入院、退所等はあったもののアベレージは目標値に近い数を残すことができました。ただ、平均介護度が予想より低く、経常収益は予定より下回る結果となりました。しかし、事業費、事務費等の支出が予算値より下回り経常利益が予算値より上回った格好になりました。介護職員は、通年を通して退職、採用もなく安定して推移しました。運営方針でもある「人としての組織づくり」の基礎が構築できました。「人を大切に」を役職者が先頭に自覚し業務を遂行しながら、職員は様々な研修に参加させて頂き質の向上を図ることができました。今後も職員が健康で就労できてワークバランスを尊重しながら継続していきます。

入居者様に関しては、感染に関する事、事故に関する事、認知症に関する事について入居者向けの学習会を実施することができました。特定入居者様の個別目標に基づく支援も施設ケアマネを中心に取組むことができました。一般入居者様には、年間を通し行事等を通じてご家族との交流を図りました。また、2016年度から「そのひとらしい暮らしを目指して」をテーマに全軽協北海道ブロックで開発した個別支援アセスメントに着手してきました。2017年度も継続し「そのひとらしい」暮らしができるよう支援していきます。

地域活動の計画は、時期と年度目標を掲げていましたが、市老協の部会活動でも、当施設単独でも行動することができないまま年度を終了する結果となりました。2017年度は、新たな体制で地域における公益的な取り組みを検討します。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

経営改善のために、従来通り「役職者会議」において一般・特定の在籍数と、予算月毎の経費執行について協議すると共に、「職員会議」にて毎月、半期毎の実績報告を行うと共に年度予算を全職員が意識しながら業務に取り組めるように適宜収支状態の報告を行い、可能な限り施設経営の状態の透明化を図ってきました。

<成果>

施設の経営状態や法人の全体の収支状況を一定程度職員に公表する中で、職員各自が、施設経営の一翼を僅かでも担っていることを意識してきた結果、経費軽減への認識が変化し、法人が掲げる「全員参加型の経営」に一步近づくことができました。また、相談職員を含む経営管理部も介護のルーチン業務や一過性の介護業務に携わり「全員介護」で今年度を乗り切ることができました。

社会福祉法人浜仁会の「ビジョン福祉35」を含め経営理念の浸透が進んだ年次でした。

<今後の展開>

2016年度は、安定的経営にかかせない人材確保はできました。しかし、退職者ができれば、介護職員の新規採用は困難で介護報酬の請求を制限する収入減少の1要因となります。現職員の退職希望はありませんが退職者ができればすぐに経営基盤が崩れてしまいます。今後は、先を見越した介護職員の確保を念頭に置き経営改善に取り組んでいきます。

2017年度は、開設21年を迎え外壁工事を予定していますが、施設設備の永年劣化等による修繕が必要と予想され、臆山の、経営品質の向上を図ることが必須になってきます。経営品質向上を図るため、待機者の管理、健康管理を徹底し在籍者数の目標アベレージを保って行きます。入居者様には、敬愛の念を強く持ち顧客満足向上を目指します。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：13名、相談員：2名、事務職員他：2名、合計：19名

○2016年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

採用⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

異動⇒看護職員：0名、介護職員：1名、相談員：0名

○介護職員（異動により1名転出 1名転入）

4. 研修参加・実施状況

○参加：25回 参加者：延べ119名

外部研修：全国軽費老人ホーム協議会、札幌老協生活相談員研究会、あいおいニッセイ同和、

全軽協北海道ブロック、社会福祉法人幸清会、なるほどケア塾、施設看護師会、札幌医師会館

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

・その他、2016年度も、各職員が自主的に研修や勉強会へ参加。（休日や有休を用いて参加。）

2016年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,770 人</u>	<u>35,740 人</u>
（うち特定入居者）		<u>15,083 人</u>
一日平均入所者数	<u>98.0 人</u>	<u>97.9 人</u>
（うち特定入居者）		<u>41.3 人</u>

入所待機者（3月末現在）個人：93 人 夫婦：22 人 うち特定：47 人
（要支援1・2を含む）

要介護度状況： 平均要介護度 1.2（要支援1・2を含む）

協力医療機関： 1. 札幌西円山病院

2.

3.

2016年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括
白石は、老人保健施設が年々強く求められている「在宅支援機能」を強化していくことを目標としています。 2016年度は、1年間で在宅復帰された入所者数が延51名となり、初めて年間50名を超えることができました。 しかし、「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」算定要件の認識不足により7月、8月の2か月間の加算算定ができなかったことは反省点となりました。一方、リハビリ関連加算を中心に加算の取得に努めた結果、老人保健施設や通所介護では予算以上の平均単価を達成することができました。 サービスの質の面では、老人保健施設サービスに係る「入所ミーティング」、在宅サービスに係る「在宅ミーティング」を立ち上げ、関連する部署や職種間の情報交換や連携を深める機会を設けました。2017年度は、この取り組みを更に進めて、白石の各事業が一体となった“大規模多機能サービス”の積極的な提供を目指します。
2. 経営改善プロジェクト活動状況
<活動状況> 毎月1回、施設運営会議開催週の月曜日に経営改善プロジェクト会議を開催した。 参加者： 施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課課長代理、施設管理課長の7名。 内 容： 利用状況（老健入所、通所）の確認、在宅復帰加算要件の確認（在宅復帰率、ベッド回転率）、新規加算の算定に向けた検討、BSCアクションプラン実施に向けた検討、その他運営上の課題について協議。 <成 果> - 老人保健施設は、7月・8月の2か月間を除き「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定することができた。 6月から「認知症短期集中リハ加算」を再取得することができた。 - 通所リハビリテーションの「リハビリマネジメント加算（Ⅱ）」は、3月実績41名（年度平均38名／1月）と確実に増加した。算定要件のリハマネ会議の定期的な開催により、質の高いリハビリテーションを提供した。 - 老人保健施設入所、通所リハビリテーションは加算の算定数増加により平均単価向上に繋がった。 - 札幌市認知症カフェの実施に向けて検討し、10月から毎月「レモンカフェコミ白」を開催することができた。 <今後の展開> 経営改善プロジェクト会議はBSC作成、アクションプラン実施状況の検討、及び結果の評価など、運営上の中心的な役割を担っており現在の活動を継続します。
3. 職員状況（3月末現在）
○2017年3月31日職員状況 医師1名、看護職員20名、介護職員103名、相談職員30名、介護支援専門員8名、療法士12名、管理栄養士1名、事務職員他20名 合計195名 ※育児休業1名、育児短時間勤務8名 ○2016年度職員異動状況 採用：21名（医師1名、看護職員3名、介護職員11名、相談職員2名、介護支援専門員1名、療法士1名、事務職員他2名） 退職：27名（看護職員7名、介護職員16名、相談職員1名、介護支援専門員1名、事務職員他2名） 転入： 3名（看護職員1名、相談職員1名、事務職員1名） 転出： 5名（相談職員1名、介護支援専門員1名、療法士2名、事務職員他1名）
4. 研修参加・実施状況
○溪仁会グループ本部主催研修会：延100名参加 ○溪仁会グループ研究発表会：8演題発表、48名参加 ○社会福祉法人本部主催研修会：延66名参加 ○北海道老人保健施設大会：1演題発表、8名参加 ○全国老人保健施設大会：1演題発表、3名参加 ○日本認知症ケア学会大会：1演題発表、1名参加 ○外部研修：「認知症ケア研修会～認知症短期集中リハビリ研修～」1名参加、「日本作業療法学会」1名参加、「日本理学療法学会大会」2名参加、「日本ケアマネジメント学会」2名参加、「日本介護支援専門員協会 全国大会」6名参加、「社会福祉施設等防火・救命実務研修会」8名参加、「北海道抑制廃止研究会」1名参加、他、多数の研修会に参加 ○内部研修（全体研修）：「防災研修会」52名参加、「自動車事故防止セミナー」46名参加、「感染予防研修会」2回75名参加、「役職者研修会」2回40名参加、「ノロ発生時対応研修会」4回開催、「感染症予防研修会」43名参加、「看護協会オンデマンド研修会：感染予防と介護事故防止」2回68名参加、他 ○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び勉強会を実施した。

2016年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	35,405 人	34,646 人
一日平均入所者数	97.0 人	94.9 人
入所待機者	3 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.9 （短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 札幌西円山病院	
	2. 白石中央病院	
	3. 札幌ひばりが丘病院	
	4. 東札幌病院	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	10,083 人	9,572 人
一日平均利用者数	41.5 人	39.0 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.1 （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	5,840 人	6,089 人

一日平均入所者数 16.0 人 16.68 人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.5 (要支援1・2を除く)

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>11,149 回</u>	<u>8,867 回</u>
(介護保険外)		<u>1,137 回</u>

一日平均利用回数 (介護保険) 36.0 回 28.5 回

要介護度状況 : 平均要介護度 1.6 (要支援1・2を除く)

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>200 回</u>	<u>159 回</u>
(介護保険外)		<u>0 回</u>

一日平均利用回数 (介護保険) 2.5 回 2.0 回

要介護度状況 : 平均要介護度 1.6 (要支援1・2を除く)

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,291 件</u>	<u>2,133 件</u>
(うち介護予防)		<u>54 件</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.9 (要支援1・2を除く)

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 581 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：439 件 権利擁護：7 件 高齢者虐待：2 件
 介護予防：5 件 その他の保健福祉サービス：13 件
 認知症に関すること：23 件 消費者被害に関すること：0 件
 住まいに関すること：22 件 心身の健康に関すること：10 件
 家族の疾病・障がいに関すること：1 件 その他：82 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>3 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>13 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>6 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>9 回</u>	<u>23 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>86 回</u>
地区組織との連携	<u>12 回</u>	<u>17 回</u>
医療機関との連携	<u>8 回</u>	<u>1 回</u>
その他関係機関との連携	<u>57 回</u>	<u>34 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>996 件</u>	<u>454 件</u>	<u>151 件</u>

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 689 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：512 件 介護予防：17 件 権利擁護：13 件
 その他の保健福祉サービス：17 件 消費者被害に関すること：3 件
 認知症に関すること：60 件 住まいに関すること：43 件
 心身の健康に関すること：40 件 高齢者の虐待に関すること：12 件
 家族の疾病・障がいに関すること：1 件 その他：93 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>14 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>8 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>3 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>4 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>4 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>15 回</u>	<u>1 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>47 回</u>
地区組織との連携	<u>29 回</u>	<u>58 回</u>
医療機関との連携	<u>6 回</u>	<u>0 回</u>
その他関係機関との連携	<u>195 回</u>	<u>32 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>987 件</u>	<u>530 件</u>	<u>113 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 61 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：29 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：24 件 その他：21 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>42 回</u>	<u>698 人</u>
介護予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
転倒予防教室	<u>4 回</u>	<u>51 人</u>
認知症予防教室	<u>4 回</u>	<u>68 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>7 回</u>	<u>264 人</u>

2016年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	6,455 人	6,300 人
一日平均入所者数	17.7 人	17.2 人
入所待機者	23 人 (3月末現在)	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.5	
協力医療機関	： 1. よつばクリニック	
	2. 札幌歯科口腔外科クリニック	
	3. _____	

【通所介護：一般型55名】

	目 標	実 績
延利用者数	12,363 人	11,882 人
一日平均利用者数	40.0 人	38.6 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.0 (要支援1・2を除く)	

2016年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 入所（短期含む）は、タイムリーなベッド調整と空きベッドをショートで活用したことで目標を達成することができた。
- 通所リハは、新規利用者やイベント行事等における追加利用者等の獲得で目標を上回る28.0名/日を達成した。しかし、体調不良や私用等の欠席者多く、利用率を上げることが今後の課題となっている。
- 訪問リハは、新規は10名と少ないが、現在20名の利用者を獲得しており安定した業績を上げている。
- 訪問介護は、新規利用者の獲得はあるものの入院や施設入所などで利用者が減少、1日平均6.1人で目標には遠く及ばなかった。
- 居宅支援は、新規利用者43件と順調に増え、町からの予防委託件数増もあって目標を大幅に上回る実績を上げた。
- 経営面では、入所と通所が好調を堅持、加えて在宅復帰加算を始め各種加算を積極的に算定し、予算目標を大幅に超える経常収益・利益を上げることができた。
- 運営面では、4月のインフルエンザ集団感染や8月の大型台風による施設の停電があったが大きな影響なく経過、年間を通じて概ね順調に運営できた。
- 人事面においては、予想外の退職や産・育休、病休などで介護員に不足が生じ、補充が進まない状況が続いている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

- <活動状況>
- 在宅復帰加算の取得を目指すため、在宅復帰プロジェクト会議を新たに立上げ、各職種間の連携、協働により6月分から算定できた。
2016年度は在宅復帰された入所者は34名おり、通所リハや訪問リハなどの在宅サービスへ繋いでおり、今後も老健本来の使命、役割を果たすべくシームレスなサービスを展開していく。
 - 各種加算は、通所リハマネ加算Ⅰ・Ⅱ409回、通所リハ認知症短期集中加算Ⅱ78回、入所の経口維持加算Ⅰ・Ⅱ102回、ターミナルケア加算も4件算定し、収益増に取り組んだ。
 - 実習生は療法士養成学校から4名延べ116日間、栄養士養成学校から1名10日間の受入を行った。また、八雲高校の一日看護体験、インターンシップ、八雲・落部・野田生中学校からの職業体験学習で42名の生徒を受入れた。
 - 苦情は7件あり、主に職員の不注意や説明不足、対応のまずさが原因となっており、職員の接客教育に取り組む。
 - 介護に関する理解や関心を深めるため「楽しく学ぶKAIGO in 八雲」開催、中高生の就業体験11名、公開セミナーに約200名参加され、好評のうちに終了した。
 - 職員親睦レク活動として、親交会総会・懇親会、夏祭り反省会、忘年会を開催、その他花見会、ママチャリレース、ビアガーデン、溪仁会ソフトボール大会などに参加し職員間の親睦交流を図った。
- <今後の展開>
- 引き続き在宅復帰加算の算定を始め看取りや通所リハマネなどの各種加算の算定に取り組む。
 - 2年連続集団感染が発生している現状から、インフルエンザやノロウイルスなどの感染予防対策の徹底を図る。
 - 地域貢献活動の一環として、認知症カフェ（若しくは介護予防サロン）の開設・運営に取り組む。
 - 介護職員の人材確保・育成のため、修学資金の貸付制度導入、外国人技能労働者の受入や高齢者を介護助手として雇用、また、資質向上のため接客研修やコーチング研修などを開催する。
 - 地域包括ケアシステムの中心的な役割を担うため、安定した運営基盤を確保するとともに地域に根差した施設づくりをすすめる。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2017年3月31日職員状況
医師：1名、看護職員15名（内非常勤3名）、介護職員44名（内非常勤3名）、療法士9名（内非常勤3名）、管理栄養士2名、介護支援専門員3名、相談員2名、事務職員他9名（内非常勤5名） 合計85名（常勤71名、非常勤14名）
- 2016年度職員異動状況
採用： 4名（看護職員2名、介護職員0名、療法士1名、運転手1名）
退職： 6名（看護職員2名、介護職員3名、療法士0名、事務員1名）
- 離職は自己都合退職3名、期間満了3名で、離職率は5.7%

4. 研修参加・実施状況

- | | |
|---|--------------|
| ○内部研修：感染管理研修、コミュニケーション研修、高齢者虐待防止研修、コーチング研修等 | 合計 8回延332名参加 |
| ○外部研修（法人内）：中堅管理職講座、中堅役職者研修、リハビリ合同研修会、ハラスメント防止研修会等 | 合計24回延 36名参加 |
| ○外部研修（法人外）：抑制廃止研修会、介護福祉士実習指導者養成研修、認知症介護実践研修等 | 合計34回延 45名参加 |
| ○テレビ会議システムによる研修：メンタルヘルス研修会、認知症研修会、ケアマネ受験対策講座等 | 合計 9回延 21名参加 |

2016年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>32,120 人</u>	<u>32,117 人</u>
一日平均入所者数	<u>88.0 人</u>	<u>88.0 人</u>
入所待機者	<u>6 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.2</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 八雲総合病院</u>	
	<u>2. ヤクモ歯科クリニック</u>	
	<u>3. </u>	

【通所リハビリテーション：定員45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,498 人</u>	<u>8,661 人</u>
一日平均利用者数	<u>27.5 人</u>	<u>28.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>1, 9 5 2 人</u>	<u>2, 5 0 0 人</u>
一日平均利用者数	<u>8. 0 人</u>	<u>1 0. 2 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2. 9</u> (要支援 1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>2, 8 2 3 回</u>	<u>1, 7 3 1 回</u>
(介護保険外)		<u>1 5 3 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>9. 1 回</u>	<u>5. 6 回</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2. 1</u> (要支援 1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 0 2 0 件</u>	<u>1, 1 8 1 件</u>
(うち介護予防)		<u>1 9 9 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2. 1</u> (要支援 1・2を除く)	

2016年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

- ・2016年度入所（短期療養含む）の1日平均入所者数は、79.2人で目標値を達成。
内訳 入所者：在宅23人、施設 1人、病院10人、再入所8人、合計42人（平均介護度 2.57）
退所者：在宅 6人、施設 2人、入院22人、死亡14人（内見取り10人）、合計44人
- ・通所リハビリの1日平均利用者数 44.6人 目標値に0.4人及ばなかった。
- ・通所介護の1日平均利用者数 18.4人 目標値に1.6人及ばなかった。
- ・訪問看護の1日平均利用回数 48.7回 目標値に1.3回及ばなかった。
- ・施設内の感染対策では、ノロウィルスの罹患はなく、インフルエンザの罹患者は数名に留めることができた。あわせて、ドライミストによる湿度管理及び次亜塩素酸による全トイレ回り1日2回の消毒と施設内消毒を継続して実施した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・引き続き「経営改善プロジェクト計画」を策定することにより、年度当初に目標を設定し、進捗状況を確認しながら年度末に施設運営会議において実施状況の成果を報告するなどして、その進捗管理に努めた。

<成果>

- ・各部署において、本計画の目標を達成するために業務改善に取り組んだ結果、年間を通して概ね安定した経営を維持することができたと評価している。

<今後>

- ・継続して、利用者様に信頼されるよう質の高いサービスが提供できる体制を確保すること。
- ・更なる改善に向けて努力するとともに、安定した施設経営が継続して行えるように取り組むこと。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況

（CH美唄）医師1名、看護職員13名（内非常勤2名。准看護師含む）、介護職員52名（内非常勤16名）、
栄養士1名、相談員3名、事務・施設管理6名、療法士8名、清掃・運転12名（全て非常勤）
合計96名（内非常勤30名）

（すまいる）介護支援専門員4名、訪問介護員25名、看護職員2名、介護職員6名、経営管理課等8名、
合計45名

○2016年度職員異動状況

（CH美唄）看護職員⇒採用2名、退職3名 療法士⇒採用4名、退職5名
事務・施設管理職員⇒採用1名、退職1名 介護職員⇒採用6名、退職9名
清掃・運転⇒採用0名、退職1名
（すまいる）介護職員⇒採用2名、退職1名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

（CH美唄）

- ・実施回数：46回、延84名参加・人材育成の為、積極的に研修受講を促した。
- ・主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協主催研修会、他

（すまいる）

- ・その他の集合研修：延14名（通所 1名、居宅 10名、経営 2名、訪介 1名）
- ・職員対象の内部研修：延420名（通所 54名、居宅 40名、経営 10名、訪介316名）
- ・訪問介護事業所内研修：1回/月
- ・通所介護事業所内研修：1回/2ヵ月
- ・居宅介護支援事業所内研修：1回/2ヵ月

○2017年度も、現行の有効な内部研修を継続しつつ、外部研修も含めた充実を図る予定である。

2016年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	28,835 人	28,899 人
一日平均入所者数	79.0 人	79.2 人
入所待機者	18 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.6（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 市立美唄病院	
	2. 宝崎歯科分院	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	13,909 人	13,780 人
一日平均利用者数	45.0 人	44.6 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.1（要支援1・2を除く）	

2016年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センター すまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	5,160 人	4,748 人
一日平均利用者数	20.0 人	18.4 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.6 (要支援(総合事業)1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数(介護保険)	15,448 人	15,082 人
(介護保険外)		4,509 人
一日平均利用回数(介護保険)	50.0 人	48.7 人
要介護度状況	： 平均要介護度 1.6 (要支援(総合事業)1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	1,920 件	1,576 件
(うち介護予防)		414 件
要介護度状況	： 平均要介護度 1.9 (要支援1・2を除く)	

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数	2,312 人
一日平均利用者数	15.1 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業(LSA)】(受託事業)

対応件数	4,228 件
(安否確認：)	3,976 件
相談連絡：	202 件
健康異変：	19 件
ガス漏れ警報器：	7 件
非常呼出：	24 件
その他：	0 件

2016年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

- 介護老人保健施設は、一日平均入所者数の目標を達成し、昨年の実績同様の結果となった。
平均介護度については、下降傾向にある。その背景として介護度の高い利用者は岩内ふれ愛の郷へ入所を案内する等を行っていることが挙げられる。
- 通所リハビリテーションは、延利用者数、一日平均利用者数ともに年間目標を達成することができた。その一方で延利用者数が増加したことに伴い、2017年度は大規模型通所リハビリテーションⅡの基本報酬となり、報酬単価が下がることとなる。
- 訪問看護の介護保険、医療保険共に延派遣回数、一日平均利用者数の目標を達成することができなかった。
派遣回数増に向けて医療機関との連携等を含め対策が急務となる。
- 居宅介護支援は、延利用者数の目標を達成することができた。
岩内町内の居宅介護支援事業所の閉鎖に伴い、その利用者を新たに担当することで利用者数増が見込まれる。
- 地域包括支援センターは、介護予防事業の継続に加え、地域ケア会議への活動や地域での新たな取り組み（はつらつ元気塾等）に積極的に活動することができた。
- 事業所内保育所があることにより保育所利用を希望する採用応募者が増え、雇用の機会も同様に増となっている。子育て中の女性職員の働きやすい環境がいかに必要か伺える。また、利用満足度の向上の取り組みとして懇談会の開催等を行っている。
- 職員の送迎を実施し、地域での人材の確保の機会も増えている。
- 酒井施設長を中心に診療体制がより充実している。また、2016年度は、2件のターミナルケアを実施した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- コミュニティホーム岩内の各部署長（役職者）をはじめとして在宅部門事業の管理者が経営改善に向けて、岩内コミュニティの丘運営会議が発足した。経営、施設運営に関するより積極的な議論が展開されている。

<成果>

- 指揮命令系統を明確化することで、速やかに課題解決に向けて取り組むことが可能となった。また、その取り組みについて岩内コミュニティの丘運営会議で情報共有することで透明性の保持や可視化ができることとなった。人事異動に伴い新しい体制で2016年度が始まった部署も目標を持ち、それぞれの課題に取り組んだ。

<今後の展開>

- 2016年度は、岩内コミュニティの丘運営会議を最高決定機関とし、介護老人保健施設事業・在宅事業の合同会議体がコミュニティの丘の課題について取組み、また、情報の共有化を図った。委員会体制等も一体的に運営を行うことで岩内の組織体制をより堅持できている。また、地域に貢献する活動を継続し、運営の充実を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2017年3月31日職員状況 *有資格者の定数配置はできている。

・医師	： 1名（正職員 0名 契約職員 0名 非常勤職員 0名 嘱託職員 1名）
・理学療法士	： 8名（正職員 8名 契約職員 0名 非常勤職員 0名 嘱託職員 0名）
・作業療法士	： 3名（正職員 3名 契約職員 0名 非常勤職員 0名 嘱託職員 0名）
・管理栄養士	： 1名（正職員 1名 契約職員 0名 非常勤職員 0名 嘱託職員 0名）
・栄養士	： 1名（正職員 1名 契約職員 0名 非常勤職員 0名 嘱託職員 0名）
・看護職員	： 25名（正職員 15名 契約職員 0名 非常勤職員 8名 嘱託職員 2名）
・介護職員	： 83名（正職員 19名 契約職員 31名 非常勤職員 33名 嘱託職員 0名）
・相談職員	： 12名（正職員 9名 契約職員 1名 非常勤職員 2名 嘱託職員 0名）
・事務職員	： 8名（正職員 4名 契約職員 1名 非常勤職員 3名 嘱託職員 0名）
・運転職員	： 7名（正職員 0名 契約職員 0名 非常勤職員 7名 嘱託職員 0名）
・合計	： 149名（正職員 60名 契約職員 33名 非常勤職員 53名 嘱託職員 3名）

4. 研修参加・実施状況

○ 新入職員研修	6名	○ 実務者研修	3名
○ 認知症介護実践者研修	1名	○ 認知症介護実践者リーダー研修	1名
○ 虐待防止研修	3名	○ 溪仁会グループ研究発表会	1名
○ 普通救命講習Ⅰ（AED研修）	1名	○ 後志感染管理研修	4名
○ ストレスチェック研修会	7名	○ 北海道老人保健施設大会	4名

2016年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,135 人</u>	<u>36,266 人</u>
一日平均入所者数	<u>99.0 人</u>	<u>99.3 人</u>
入所待機者	<u>5 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.88</u>	
協力医療機関	： <u>1. 岩内協会病院</u>	
	<u>2. 済生会小樽病院</u>	
	<u>3. 中村歯科医院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,560 人</u>	<u>11,093 人</u>
一日平均利用者数	<u>40.0 人</u>	<u>40.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.39</u> （要支援1・2を含む）	

【地域包括支援センター】

延相談件数 164 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： <u>90 件</u>	代行申請： <u>30 件</u>
認知症： <u>8 件</u>	生活支援： <u>3 件</u>
権利擁護： <u>3 件</u>	高齢者虐待： <u>3 件</u>
介護予防・リハビリ： <u>2 件</u>	入所： <u>4 件</u>
その他： <u>29 件</u>	

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>0 回</u>	<u>12 回</u>
二次予防会議	<u>0 回</u>	<u>11 回</u>
センター内会議	<u>14 回</u>	<u>14 回</u>
個別ケース会議	<u>3 回</u>	<u>3 回</u>
虐待対応会議	<u>0 回</u>	<u>9 回</u>
運営推進会議	<u>0 回</u>	<u>7 回</u>
居宅・包括連絡会議	<u>2 回</u>	<u>2 回</u>
地区組織関係会議	<u>0 回</u>	<u>27 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>72 件</u>	<u>1,635 件</u>	<u>7 件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>3,356 回</u>	<u>3,089 回</u>
（うち介護保険外）	<u>1,003 回</u>	<u>567 回</u>
一日平均利用者数	<u>13.9 人</u>	<u>12.6 人</u>

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.43 （要支援1・2を含む）

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>300 件</u>	<u>311 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>

要介護度状況 : 平均要介護度 1.48 (要支援1・2を除く)

2016年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

＜青葉HCC＞居室スペースの有効活用を模索し、9月より小規模多機能居宅介護が開設した。
 ＜通所介護＞これまでの3分の2程度のスペースとなった。小規模に移行される利用者は6名いたが、それ以外の利用者はこれまで通り利用となった。利用休止、中止者を補うだけの新規獲得が通年を通した課題となった。2017年度は、営業を含め具体的に行動改善することで収支改善に繋げることが急務となる。
 ＜居宅介護支援＞通年で人員体制を整えることが課題となったが収支的には黒字で展開することができた。職員異動により、新人職員にも即戦力として働いてもらう必要があり、調整困難な状況が続いた。現在は、異動者と新人職員の入職により、体制も整いつつある。
 ＜訪問看護＞職員の産休・退職により利用者受入数の調整が必要な時期があった。PTの退職には、DSのPTを異動し事業全体で調整し対応した。職員が休むとフォローできない状況があり人員調整が課題となった。年度を通した収支は黒字で終了することができた。
 ＜小規模多機能＞7名の登録から事業を開始し年度末には16名の登録となった。微増ではあるが確実に登録者数は伸びていった。独居の方が多く、ニーズとしては訪問の需要が多い。反面、宿泊は月数名となった。職員採用は厳しい状況が続いたが、定員に応じた職員数は確保できた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞
 ○溪仁会ハーティケアセンター運営会議・・・各事業所より運営状況及び改善状況の報告。
 参加者：青葉HCCセンター長
 開催日：毎月第2水曜日開催
 ○青葉ハーティケアセンター運営会議・・・通所介護・訪問看護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護による経営改善を主に合議する。
 参加者：各事業所長・役職者・主務者
 ○各事業体会議、主務者会議（DSの職種代表参加）
 ＜成果＞
 ○各事業所間の課題を共有し合議し、喫緊の改善に向けた話し合いを重ねたが、人材の確保安定が優先課題となり、特にDSの収支改善に繋げることができなかった。
 ＜今後の展開＞
 ○2017年度は2HCCとなり、人員・収支においても青葉HCCとしての自立が求められる。事業所間の連携を強化し改善に繋げたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年3月31日職員状況
 ・管理者：4名
 ・相談職員：1名
 ・介護支援専門員：4名
 ・看護職員：12名（内非常勤職員 5名）
 ・介護職員：24名（内非常勤職員 7名）
 ・理学療法士：2名
 ・作業療法士：1名
 ・事務職員：1名
 ・運転職員：4名（内非常勤職員 4名）
 ・合計：53名（内非常勤職員 16名）
 ＊各事業所とも人員の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○研修・勉強会
 ケアプラン作成研修・ケースカンファレンス・北海道共生ケアネットワーク・社会資源の活用・
 呼吸器リハの研修・実践者研修・若年認知症従事者研修・ケアマネ資質向上研修・
 ケアマネジメントに関する技術研修・パワハラ防止研修・認知症学習会・その他職場内研修等実施

2016年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>15,525 人</u>	<u>13,010 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>50.1 人</u>	<u>41.8 人</u>
要介護度状況 一般型	： 平均要介護度 <u>1.5</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,900 件</u>	<u>1,611 件</u>
（うち介護予防）		<u>226 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.6</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4,086 回</u>	<u>3,932 回</u>
（うち介護保険外）	<u>735 回</u>	<u>676 回</u>
一日平均利用者数	<u>19.7 人</u>	<u>16.1 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.2</u> （要支援1・2を除く）	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>3,991 人</u>	<u>2,139 人</u>
※延通い利用者数		<u>1,015 人</u>
※延宿泊数		<u>1,203 人</u>
※延訪問数		<u>9 人</u>
一日平均登録者数	<u>22 人</u>	<u>15 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.6</u> （要支援1・2を除く）	

2016年度 事業報告

施設名：豊平ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

2016年度の延利用者数は、11,755名で平均要介護度1.5、平均利用者数37.0名であった。

2016年度内の事業廃止決定後、下半期より年度末にかけての事業廃止に伴う調整となった。

事業廃止については、新琴似ハーティケアセンターと同時進行で10月末までに全職員へ周知を行い、11月初旬よりご利用者、ご家族、居宅介護支援事業所、及び各関係機関に文書、アナウンス、電話等により周知開始。ほとんどのご利用者が他デイサービスへの移行を希望されたため、各担当ケアマネジャー様と連携し出来る限り円滑な移行となるよう調整を行った。

2017年2月末を以て事業廃止。ほぼ全ご利用者が他デイサービス移行完了。苦情等の発生はなかった。

職員については、常勤介護職員2名が年明け他事業所に就業が決定した為に退職、他、常勤職員13名全員と非常勤職員3名は異動し、非常勤職員4名、派遣職員2名は退職した。

事業廃止後についても、ご利用者、各関係機関等からの苦情の発生はなく、3月末を以て残務処理はほぼ完了した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議：各事業所より運営状況及び改善状況の報告。

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似

居宅介護支援 … あおば・こころまるやま

訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催（下半期は一部不定期開催）

○豊平溪仁会デイサービス運営会議（毎月速報後に実施）収支改善の検討や職員状況の把握

○豊平溪仁会デイサービス職員会議（毎月最終週に実施）現場での業務改善事項の検討・周知

<成果>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議、豊平ハーティケアセンター運営会議において各事業所の問題点を共有、協議する事で業務の効率化を図る事ができた。業務時間内に仕事が終わるようになり、時間外勤務を大幅に減少する事ができた。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年2月28日職員状況

・管 理 者 :	1名（相談職員兼務）	→異動 1名
・相 談 職 員 :	1名	→異動 1名
・看 護 職 員 :	4名（内非常勤職員2名）	→異動 4名
・介 護 職 員 :	10名（内非常勤職員2名）	→異動 8名、退職 2名（非常勤職員）
・事 務 職 員 :	1名（内非常勤職員1名）	→異動 0名、退職 1名（非常勤職員）
・運 転 職 員 :	3名（内非常勤職員2名）	→異動 2名、退職 1名（非常勤職員）
・合 計 :	20名（内非常勤職員7名）	→異動 16名、退職 4名（非常勤職員）

*人員の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ・キャリア支援室主催：3名参加

○研修（内部勉強会）：偶数月に実施（上半期のみ）

2016年度 事業報告

豊平ハーティケアセンター

【通所介護：一般型70名】※2017年2月28日事業廃止

目 標

実 績

延利用者数（一般型） 16,872 人 11,755 人

一日平均利用者数（一般型） 52.0 人 37.0 人

要介護度状況 一般型 : 平均要介護度 1.7 (要支援1・2を除く)

2016年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

札幌西円山病院通所リハビリテーション事業所が、2016年9月30日をもって閉鎖となることに伴い、利用者と一部職員が移行となった。移行時、利用者が一時的に急増したため、生活（活動）場所や利用者への対応などについて一部課題が生じたが、職員間で課題解決にむけた検討を幾度かおこなった結果、大きな問題なく経過することができた。また、目標数値においても利用者の移行、新規獲得により、目標数値を上回ることができた。

<居宅介護支援>

2017年1月のケアプランセンターころようてい開設に伴い、喜茂別町・留寿都村の利用者の移行、職員の異動があったが、円滑に引き継ぎ等を行うことができた。

<障害相談支援>

市内の新規は少ない状況にあったが、南後志地区（寿都、島牧）からの新規依頼・計画作成数は40件程度あり、当初予想していた目標数値を上回ることができた。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○通所運営会議：業務の効率化、経営改善にむけて検討。

○居宅会議：業務の効率化、サービスの質向上を目的として実施。

<成果>

○事業所で抱えていた問題点等を検討、改善することができた。

<今後の展開>

○2017年度においても問題点等の情報共有、検討、改善をおこなっていき、質の高い安心・安全なサービスを提供していきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2017年3月31日職員状況

・管 理 者	：	2名（内 生活相談員兼務 1名、介護支援専門員兼務 1名）
・相 談 員	：	3名
・介護支援専門員	：	7名
・相談支援専門員	：	1名
・看護職員	：	5名（内 非常勤職員 1名）
・言語聴覚士	：	1名
・作業療法士	：	1名（内 非常勤職員 1名）
・介護職員	：	20名（内 非常勤職員 7名）
・事務職員	：	1名
・運転職員	：	6名（内 非常勤職員 5名）
・合 計	：	47名（内 非常勤職員14名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：

認知症学習会、ミドルマネジャー養成ゼミ、契約上の法律トラブルに関する研修会、認知症研修、安全運転管理者講習、地域医療マネジメント研修、社会保障ゼミ、専門者向けゲートキーパー養成研修、若年性認知症の会、高齢者の終末期医療を考える会、相談者従事者研修会、ケアマネジメント能力向上研修会、地域連携とチーム連携についての理解、主任ケアマネフローアップ研修、喜茂別町地域ケア会議

○内部研修：

移動・移乗介助、コンプライアンス研修、AED（心肺蘇生）、中間管理職講座、虐待防止研修嚙下研修（飲み込みについて）

2016年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型75名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>18,828 人</u>	<u>19,398 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>58.8 人</u>	<u>62.4 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.16</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,546 件</u>	<u>2,413 件</u>
（うち介護予防）		<u>127 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【障がい者相談支援事業】

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）

新規計画	<u>45 件</u>	（内年度内終了者0件）
モニタリング	<u>223 件</u>	
新規登録者	<u>45 名</u>	登録抹消者 <u>0 名</u> 年度末登録者数 <u>257 名</u>

2016年度 事業報告

施設名：新琴似ハーティケアセンター

1. 総括

2016年度の延利用者数は、11,726名で平均要介護度1.4であった。

2016年度内の事業廃止が決定し、下半期より年度末にかけての事業廃止に伴う調整となった。

事業廃止については10月末までに全職員へ周知を行い、11月初旬よりご利用者、ご家族、居宅介護支援事業所、及び各関係機関に文書、アナウンス、電話等により周知開始。ほとんどのご利用者が他デイサービスへの移行を希望されたため、各担当ケアマネジャー様と連携し出来る限り円滑な移行となるよう調整を行った。2017年2月末日を以て事業廃止。ほぼ全ご利用者が他デイサービス移行完了。苦情等の発生はなかった。

職員については、法人内他施設への異動を前提として法人本部と連携し個人面談を実施。自宅近隣での勤務を希望する非常勤職員は法人内に該当する施設がないため全員が希望により退職となったが、常勤職員については概ね2月末日までに異動先が決定した。

事業廃止後についても、ご利用者、各関係機関等からの苦情の発生はなく、3月末日を以て残務処理はほぼ完了した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議：各事業所より運営状況及び改善状況の報告

参加者：通所介護 … あおば・豊平・円山・新琴似

居宅介護支援 … あおば・こころまるやま

訪問看護 … あおば

開催日：毎月第3水曜日開催（下半期は一部不定期開催）

○新琴似ハーティケアセンター運営会議・職員会議

参加者：管理者、全職員

<成果>

○溪仁会ハーティケアセンター運営会議と新琴似ハーティケアセンター運営会議間において、情報共有や課題解決について協議し、超過勤務の減少等、業務改善につなげることができた。

3. 職員状況（3月末現在）

○2016年度職員採用・退職等状況

退職⇒25名（看護職員：2名、介護職員：13名、相談職員：1名、派遣・他：9名）

採用⇒4名（看護職員：0名、介護職員：1名、相談職員：0名、派遣・他：3名）

異動⇒11名（看護職員：2名、介護職員：7名、相談職員：2名、派遣・他：0名）

4. 研修参加・実施状況

○上半期に介護技術に関する研修を実施。下半期は研修等開催、参加はなかった。

2016年度 事業報告

新琴似ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】※2017年2月28日事業廃止

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,115 人</u>	<u>11,726 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>52.0 人</u>	<u>38.0 人</u>
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 <u>1.4</u> （要支援1・2を除く）	

2016年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（5月・10月・3月）、評議員会（5月・10月・3月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・経理内部相互監査の実施（7施設）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月・6月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・各種会議への参加、他
- ・内閣府原子力規制・防災対策事業（放射線防護対策事業）の施行（コミュニティホーム岩内）
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人候補者による予備調査の実施
- ・監事監査の実施（5月・7月・10月・1月・3月）
- ・外部監査の実施（7月・10月・1月）

【情報システム課】

- ・5ヵ年計画を策定
- ・7月より「作業依頼書」運用開始（実績：160件以上）
- ・LM-Wincareへの更新（計画の7拠点完了）
- ・人事・財務システムの更新について、当該職員から要望を収集、実現可否を明確化
2製品を選定（見積金額 ミロク社：24,000千円、NDソフトウェア社：13,400千円）
- ・WINCARE及びタブレット活用の説明会実施（社福：3回、医療法人：1回、合同：1回）
- ・介護報酬請求システム運用支援
- ・タブレット端末の導入を設計（無線LAN導入の費用対効果を考慮、安価なSIMでの運用を提案準備中）
- ・ファイルサーバーの更新作業を内製化（外注比 約4,000千円のコストダウン）
- ・使用頻度の低いIDの削減を目的に、各施設にK@NETのメールの使用状況提供（1ID/4,920円/年間）

【購買担当】

- ・電力購入業者の変更「8契約分」平成28年10月1日～
○北海道電力からエフパワーに変更 年間削減額3,552千円
- ・清掃委託及び厨房衛生管理委託内容の見直し「10施設分」平成29年4月～
○年間削減額2,736千円

●人事部

- ・人事検討会議の開催（毎月開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・「楽しくまなぶ KAIGO in やくも」の開催支援
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障がい者雇用の推進と理解の浸透

【総務課】

- ・総務内部相互監査の実施（7施設）
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・電源地域補助金の審査依頼・請求等の支援（コミュニティホーム岩内）
- ・キャリアアップ助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理
- ・各種契約案件における入札事務（20件）

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・法人本部主催のテーマ別研修会の開催（9回：参加者延べ269名）
 - 衛生管理研修会の開催（1回：参加者18名）
 - コミュニケーション研修会の開催（2回：参加者延べ73名）
 - 認知症研修会の開催（2回：参加者延べ61名）
 - 地域連携研修会の開催（2回：参加者延べ46名）
- ・新入職員研修の開催（3回：参加者延べ56名）
- ・ユニットリーダーフォローアップ研修（出張）の開催（4回：参加者延べ40名）
- ・中堅管理職講座の開催（8回：参加者延べ178名）
- ・介護支援専門員受験対策講座の開催（4回：参加者延べ119名）
- ・介護福祉士受験対策講座の開催（5回：参加者延べ78名）
- ・認知症学習会の開催（4月から毎月実施、11回）
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会への支援
- ・テレビ会議システムによる研修会・各種講座の支援
- ・研修講師調整支援：年間25件
- ・ストレスチェック実施支援：受検者70.6%、高ストレス者15%

●事業推進部

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・法人リハ全体会議（10月）
- ・リハビリ課定例会議（毎月）
- ・溪GPリハ責任者会議（毎月）
- ・老健リハ会議（7・1月）
- ・特養リハ会議（8・2月）
- ・訪問系リハ会議（7・2月）
- ・広報担当者会議（3月）
- ・ST合同会議（6月・3月）
- ・職員の各施設への訪問（八雲9月、美唄9・10・12・3月、岩内4・5・7・11・1月、円山12月、手稲つむぎの杜12月）
- ・養成校の就職説明会参加（3校）、養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施
- ・社）溪仁会リハ部門合同研修会、懇親会（10月）
- ・社）溪仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会（3月・計3回）、コミュニティホーム八雲研究発表会（3月）
- ・法人内施設・事業所への講師派遣（延べ4名、外部への講師派遣（延べ11名）
- ・言語聴覚士派遣（毎月）：月寒あさがおの郷、きもべつ喜らめきの郷、手稲つむぎの杜、菊水こまちの郷、るすつ銀河の杜、コミュニティホーム美唄、コミュニティホーム岩内、あおばデイサービスセンター
- ・作業療法士派遣（毎月）：喜茂別町立クリニック（毎週）、きもべつ喜らめきの郷（毎週）、菊水こまちの郷（毎週）、るすつ銀河の杜（毎週）、デイサービスセンター白石の郷、コミュニティホーム美唄（10～3月）
- ・研修受入：医療法人溪仁会のKプロジェクトの新人12名（5/9～5/27）
- ・リハビリ需要アンケート実施
- ・リハ職に対する業務時間構造調査実施
- ・ST派遣マニュアル制定
- ・研究発表（溪仁会グループ研究発表会4演題）
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告によるリハビリ課の情報収集
- ・介護報酬のリハ関連加算取得の推進
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、他

【栄養管理担当】

- ・栄養管理者会議の開催（6月・10月・2月）
 - 情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告、意見交換等）
 - 調理技術の評価票作成・各事業所で実施
- ・各事業所からの月報・取りまとめ
- ・勉強会の開催
 - 6月：高齢者の嚥下と食事について
 - 10月：乳酸菌とシロタ株の働きについて
 - 2月：脱水と水分管理について
- ・溪仁会グループ栄養士の意見交換会（4月、7月、3月）
- ・手稲つむぎの杜の栄養・食事サービス業務の遂行

●業務管理室

- ・CSR事業推進会議の開催（2回）
- ・KMS担当者会議の開催（2回）
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（29事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（32事業所：介護予防含む）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告219件）
- ・KMS・医療福祉介護連携会議への参加
- ・各施設運営会議への参加
- ・各職種会議への参加
- ・各施設への業務支援
- ・コンプライアンス研修の開催（1回）
- ・リスクマネジメント研修（危険予知トレーニング）の開催（3回）
- ・虐待防止研修の開催（9回）
- ・第三者委員への報告
- ・顧問弁護士への相談支援

●ヘルスケア事業推進室

- ・4町村（喜茂別町、積丹町、ニセコ町、島牧村）遠隔健康支援事業
- ・喜茂別町民の生活改善支援委託業務
- ・喜茂別町民元気かるて管理委託業務
- ・経済産業省ヘルスケア最前線2017地域を支えるヘルスケアサービス事業者として事例発表
- ・北海道ヘルスケア産業振興協議会事業協力
- ・経済産業省健康寿命延伸産業創出推進事業協力
- ・留寿都高校農業福祉コース講師派遣